

## 佳作

### 私のエネルギー

青森県八戸市立小中野中学校

1年 田中 蘭

私の夢は教師になること。それは小学校の頃からの夢だ。夢ができるまで私は、何にも熱くならず、平凡でなんのアクションもない、つまらない毎日を過ごしていた。

6年生の後半のことだろうか。担任の先生に声をかけられた。それは、学習発表会の劇で、どんな役をやりたいか、という内容だった。なぜ私にそれを聞いたのか、全く理解ができなかった。なぜって、私は今まで目立つことをしてこなかったから。このままでいいと思っていた。このまま、平凡な毎日を過ごすことが、私にとって楽だと思っていたから。だって、目立つことをしたら周りに何を言われるか、周りにどんな目で見られるのかが、気になってしょうがないから。怖かったから。だけど、この時はなぜか、好奇心が湧いたのだ。なにか主演級の役をやってみたら、どうなるのか。何かが変わるのではないか。だからとっさに言った。目立つ役をやりたいと。このとき、怖いという感情は芽生えなかった。そして主演級の役を演じることになった。

劇当日、私は周りの視線など全く気にならなかった。自分が思うままに自分を表現していた。この劇を創り上げるために、とても苦しい練習があった。私は今まで目立つことをしてこなくて、ただ普通に過ごしていたから、怒られることなんて、難しいことなんて、大変なことなんて、そうそうなかった。だからなのか、劇を創り上げるときの苦しい練習の日々は不思議ととても楽しかった。苦しい日々を求めて、私は、楽しんだ。毎日を、その瞬間を、楽しんだ。周りからすると少しおかしいと思うかもしれないけれど、なんのアクションもない日々が、アクションだらけになる日々は、本当に楽しかった。これまで無造作に過ごしてきた日々を取り戻したいと思うほどに、この日々は楽しくてしかなかった。

劇が終わると、私を含め、みんなの目に涙が浮かんだ。それは、苦しかった練習の日々を終えて、最高の劇を創り上げたいという、達成感による涙だったのだと思う。だけど私の涙は、違った。たしかに、達成感による涙もあった。けれど、今思うと、私が流したあの涙は、こんなに楽しい日々を見つけ出せたことがうれしくて、うれしくて、そして、今まで見つけ出せなかったことが悔しくて、悔しくて、あふれ出た涙なのだった。だから、この日々を終わらせたくなかった。アクションだらけのこの日々をこのまま過ごしていきたいと

思った。

そう思っていると、また一つ提案をされた。リーダーをやってみないかと。これこそ、周りにどう思われるかわからない。以前までの私なら、真っ先にこう考えていただろう。だが、このとき私は、「私にとっての楽しさ＝アクションだらけの日々」を求めていたから、やったことのないことをやりたいと願った。自分が楽しめる毎日を自分で創っていこうと思った。

でもやはり、リーダーをやるというのはとてつもなく困難なことだった。今まで目立たなくて、こんなことやったことがなかったから、くじけそうにもなったし、何度も、やりたくない、自分の選択は間違っていた。あのときに、「やりません」とだけ言って、今までどおり、楽に過ごしていけばよかったのではないかと思うこともあった。それでも、私の選択は正しかったんだと自分に言い聞かせ、怒られながらも、難しくても、大変でも、そんな毎日を楽しんだ。自分が楽しむために、苦しくても、やり続けた。

このように過ごしていると、私が今の自分に出会うことができたのは、すべて、担任の先生がきっかけを与えてくれたからだと気づいた。私がかくじけそうになったときも、何度も背中を押してくれた。もう一つ気づいたことがある。私は、教師になりたいのだと。困っている子を、思ったようにできない子を、そんな、子どもを気にかけて、背中を押してあげられる教師になりたいのだと。子どもの未来を明るくできる、教師になりたいのだと。私は本当に感謝している。あんなだった私を、ここまで、変えるきっかけを与えてくれて、手助けをしてくれて。ありがとうという思いでいっぱいだ。

私は今、「教師になるために＝自分が充実した楽しい毎日を過ごすために」努力し続けている。困難を楽しんでいる。

私のエネルギーは刺激のある毎日を、楽しんで生きていけることだ。